

伊賀市における教育のあり方について

～三重県、三重県教育委員会、伊賀市へ提言～

三重県商工会議所連合会では、今後県教育の充実をさらに推進し、産業界において必要とされる有能な人材を育成するため、「三重県における教育のあり方」について、平成24年3月6日に鈴木三重県知事・真伏三重県教育委員会教育長へ、また平成24年9月26日には「伊賀市の教育のあり方」について、内保市長・味岡教育長へ提言を行いました。提言内容は下にあげた4項目で、特に基礎学力や普段の生活態度の向上、またコミュニケーションの取り方などについて、重点的に取り組んでいただくよう要望しました。

1. 家庭、地域社会、学校が一体となって子供を育てる社会環境の醸成

教育は、高等学校のみならず幼児教育、小・中学校教育や家庭教育と相俟って効果を発揮するものである。そのため家庭、地域社会、学校が一体となって子供達に人間として基本的な身につけなければならない能力、態度や姿勢を付与する社会環境の醸成をすること。

2. 高等学校卒業時までには職業生活に必要な基礎学力を身につけさせること

職業生活を円滑に行うためには、各々の職業に関する能力を身につけるにあたって一定の国語力や計算する能力はもとより基礎学力を是非とも身につける必要がある。また、教えられたものを知識として単に覚えるだけでなく、その知識を活かすための自ら考える能力を身につけさせること。

3. 高等学校卒業時までには社会人としての基礎的な生活態度を身につけさせること

近年の高等学校卒業生に見られる傾向として職場の上司や先輩とコミュニケーションがとれない、指示されないと自ら行動が出来ない、人間関係をスムーズにする言葉遣いが出来ない等の問題が顕在化している。そこで、人が社会の中で円滑に暮らしていくための基本的な資質として基礎的な生活態度を身につけさせること。

4. 普通科高等学校において重点的にキャリア教育を実施すること

県下の普通科高等学校の中で、卒業生の内、毎年多くの生徒が就職する高等学校においては、キャリア教育の充実が特に望まれるところである。しかしながら普通科高等学校であるとの性格からキャリア教育(職業観や社会の中で仕事の持つ意味等)が充分に行われているとは言い難い。そのため卒業後就職した子供達は十分な情報や心構えも持たないままに職場に入ることとなり、このことが職場での不安やとまどいとなり、やがては離職へと繋がっている例が見られる。そこで、特に普通科高等学校の中でも卒業後ただちに就職する生徒が多い高等学校においてキャリア教育の充実をすること。

